

未来に向けて
過去から学ぶ

震災による臨時休業を経験

2人の教師に尋ねる

2011年3月に発生した東日本大震災、16年4月に発生した熊本地震では、多くの高校が休業を余儀なくされた。当時、3学年団として3年生への支援に尽力した2人の教師に、休業明けの3年生の指導の留意点について、当時の経験も交えながら話を聞いた。

1 「想定外な出来事」を通じた成長を信じて、生徒一人ひとりに寄り添う

福島県立磐城高校 3学年担任 小林俊一

生徒の声に耳を傾け
「新しい日常」をもにつくる

本校が臨時休業に入ったのは4月21日、今年度からクラス担任として3学年団に入った私と、新学年になった生徒がお互いを知ろうとしていた矢先のこと



福島県立磐城高校
3学年担任
小林俊一
こばやし・しゅんいち

教職歴27年。同校に赴任して2年目。2011年度は磐城校が丘高校で3学年担任を務める。以後、同校、ふたば未来学園高校で進路指導・主事を歴任。地理歴史・公民科。

した。今年度の3学年は、「大学入学共通テスト」が初めて実施されるなど、手探りの部分の多い学年です。総合型選抜に向けて、生徒の強みや志望を丁寧に確認していくことも含めて、進路指導や学習指導では、例年の3年生以上に生徒一人ひとりに寄り添っていかうと考えていました。しかし、4月、5月はそうしたことがほとんどできませんでした。

多くの3年生は、淡々としていました。「仕方ない」と自分に言い聞かせているようにも見えました。東日本大震災の時も、家庭が大きな被害を受けた生徒は、教室では努めて明るく振る舞っていました。

た。しかし、出願前の面談時に、震災で受けた心の傷を話す生徒が何人もいました。今回、生徒は「大変なのはみんな同じ」と、気丈に悲しみを飲み込もうとしているように、私には思えません。

今、私にできることは、「自分が生徒の立場だったら……」と、彼らの内面をひたむきに想像することだけです。学校が再開し、一見、臨時休業前の状態に戻ったように見えたとしても、実際はそうではありません。だからこそ、私たちは、生徒の今をひたむきに探っていくことが必要だと思えます。部活動の大会や学校行事の中止・延期が余儀なくされる中、受験生への切り替えのための機会として機能してきた場を、今後、学校、学年としてどうつくっていくのか、教師だけでなく、生徒の声も聞きながら、新しい日常をとともに考えていきたいと思っています。

写真 授業動画を製作



小林先生が製作した倫理の授業動画。「要点を絞り込んだら50分の授業が10分程度の動画に収まりました。しかし、これまでの授業には無駄な時間が多かったのかという、そうではないと思います。生徒たちは、私の板書のタイミングや余談の時間に考えを整理していたのだと思います。動画作成は、今後の授業における余白のあり方を、私自身が考える機会になりました」(小林先生)

夢を諦めさせないために 問われる進路指導の力

生徒は新しい日常を生きていますが、第1志望合格というミッションに変わりはありません。大学で何を学びたいのか、合格のために今何をすればよいのか、これまで深めてきたことを今後も深めていくことが、生徒には求められます。今回の臨時休業中、本校の教師は学年団や教科で協力し、授業動画や課題の配信などを計画的に行いましたが(写真)、

その内容が生徒に定着したかどうかは、今後検証していくことになります。オンラインツールの活用状況などは今とは全く異なりますが、震災後の3年次6月の模擬試験の結果は、震災発生前の2年次2月の結果と比べて、想像以上によくなかったことをはつきりと覚えています。ただ、私は当時、生徒に「2年生までの履修内容を定着させることができれば合格に大きく近づく。決して焦ることはない」と、何度も話しました。生徒の状況を客観的に把握した上で、根拠を持って前向きに見通しを語ることが今回も必要でしょう。目標に向けてやるべきことを的確に捉えて、生活のリズムを再構築させることが求められているのは、震災時も今も同じだと思います。また、家庭の経済状況が変わり、志望校の変更を迫られる生徒が出てくること予想されます。生徒や保護者に、早い段階で率直に悩みや不安を吐露してもらえるよう、3学年団の教師は、部活動の顧問などとも連携して、多角的に生徒、保護者と信頼関係を構築しておくことが求められます。そして、実際に志望校を変えざるを得ない生徒が現れた時に、その生徒が置かれている状況の中で、どうすれば夢を諦めなくて済む進路選択ができるか、ともに考えることが必要です。

福島県立磐城高校

◎校是は「知性と責任」。2018年度から福島県教育委員会より「福島スーパー・イノベーション・ハイスクール(福島S I H)」に指定。新たな産業の創出・集積に資する研究者や経営者・起業家など、国内外で活躍する人材を育成する。

◎設立 1896(明治29)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約280人

◎2020年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、東京大、大阪大などに130人が合格。私立大は、上智大、中央大、東京理科大、明治大、早稲田大、立命館大などに延べ460人が合格。

◎URL <https://iwaki-h.fcs.ed.jp/>

震災を契機に、これからの社会のあり方、個人の生き方を深く問い始めた生徒、復興への使命感を抱いて地域課題に目を向けた生徒がたくさんいました。では、今回の経験を通して、生徒はどんな視点を獲得し、それを自分の人生にどう生かしていくのでしょうか。きっと生徒は、世界・日本のこれからを自分事として主体的に考える機会にしてくれると思います。生徒たちの今後の成長を、私はとても期待しています。3学年の担任として、生徒の今はもちろん大切です。しかし、今だけに目を向けるのではなく、10年後、20年後の成長を信じ、未来に生かされる力を育むようなかかわり方を、これからもしていきたいと思っております。